

毎週火曜掲載

新聞を

公開
私の実践ノート

⑨

投書活用学び主体的に

日本新聞協会NIEアドバイザー 斎藤 昭雄

現代人の多くは、スマートフォンが始まるのだから。そんな時代にあっても、私は朝一番で新聞を開かないとどうにも落ち着かない。

2年前、私はNIEアドバイザーに任命されたものの、教職を離れて5年が経過しており、自分自身で新聞を授業に生かす実践ができないいら立ちを感じていた。それでも、

この役目を引き受けた限りは、新聞好きなら私ができることに力を尽くそうと心に決め、さまざまな実践を続けてきた。

第一に考えたことは、後輩教員に新聞活用の工夫を伝えることである。小学校6年の国語に「新聞の投書を読んで意見を書こう」という単元がある。教科書には四つの投書

が用意されており、「書き手の主張をとらえ、構成や説得の工夫を見つけること」などを主な狙いとしている。ここ



さいとう・あきおさん
NPO法人代表理事。元仙台市立小学校校長。前宮城県NIE委員会顧問。2017年から日本新聞協会NIEアドバイザー。角田市出身。名取市在住。

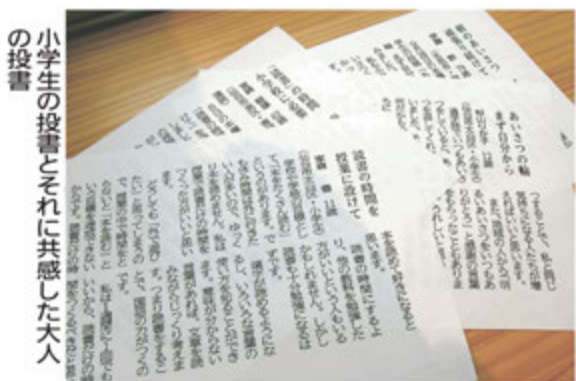
で私は、「子どもに『新聞投書』の歴史を教えることを単元の導入にしたい」とアドバイザーした。

読売新聞は、明治7(1874)年11月の創刊に当たり、読者に「投稿」を呼び掛けている。明治30年創刊の河北新

報でも同様な取り組みをしていたことが社史から読み取れる。「新聞」から情報を受け取ることだけでなく、読者が発信することもできるのだ(新聞の双方向性)ということとを、子どもにぜひ伝えておきたいものである。

さらに、このような導入から進める本単元の授業では、教材文として本物の新聞投書を活用したい。自分たちにとって身近な存在の人が意見を書き新聞に掲載された。

この学習を実践した後輩教諭からは、「クラスの子の投書が7人も新聞に掲載された」といううれしい報告が届いた。満面の笑みで新聞を手にはしている子どもの顔が目



小学生の投書とそれに共感した大人の投書



地域の小学校のおまつりで、巨大新聞紙ドームを作る

◇

NIEを実践している教員やNIEアドバイザーに、自分だけの方法を公開してもらいます。NIEがぐっと身近になります。各月第一週に掲載します。次回は2月5日。